

ただいまご紹介にあずかりました、北相木村長の井出高明と申します。先ほど次長さんから、いろいろなことを紹介していただきましたけれども、本当に北相木は小さな村です。皆さん、東信管内で、青木村さん、東御市さん、そしてほとんど佐久市からいわゆる佐久広域行政と一緒にやっている皆さん、そういった皆さんでございしますが、なかなか北相木は、聞いたことがあっても、おいでくださったことはない方が大勢だと思います。そういう中で、少し紹介させていただきます。

北相木村は非常に小さな村です。県下 77 市町村がございすけれども、3 番目に小さな村でございすが、人口は 800 人しかおりません。そういう村がどうやっているのか。今、東御市さん、佐久市さん、それから佐久穂町さんが合併して、13 年前ですか、12 年ぐらい前ですかね、平成のいわゆる大合併のときに一緒になられました。そのときに、私ども南佐久郡下、特に小海町・南相木村さんとの合併の話もございましたが、なかなか難しいことがございまして、現在に至っています。私どもは明治の廃藩置県、いわゆる明治 22 年のときから一度も合併したことがない、村ということでございまして、いまだ頑張らなくてはいけない状況下に置かれているということでございす。

そういうことで、小さい村が、小さいから何ができるのだということで、先ほど山村留学の話も出ましたけれども、一学年 10 人以下、本当に児童の少ない中で、今、私学塾の「花まる学習会」という所と提携して、公立学校でございすけれども、私学塾と一緒にやっての教育に取り組んでおります。塾といっても、がりがりと勉強させるという、いわゆる皆さんが想像しているような塾ではございせん。大人になって一人で飯の食える子どもに育てる、そういった教育にはどういう所がいいか、それはやはり自然の中で、小さい頃は育ったほうが。山や川が危険だ、何だなどと言うより、その自然の中のありのままの所での教育がいいのではないかとこのことをモットーにしている学習塾でございす。それらの教育方針を、私どもの北相木小学校の先生方は、非常に共鳴なされている。

北相木独自の教育方法として、花まる学習会の方法を取り入れ、北相木村バージョンを作って、今その形式で、始業前の 10 分間を使って、1 年生からタブレットを使って、すごい四字熟語を何遍も、本当に、1 年生からどんどん繰り返し熟語を皆、読んでおります。私たちが知らない四字熟語も出てくるのですが、意味はといたら、そんなこと内容意味などは知らなくてもいいのだと。まー知らなくてもいいことはないけれども、興味を持ってくれば、自然にそこで深く入り込んでくる。とりあえずは、反射能力、判断力などを育成するための訓練だということをやっている。数字的面でも、言語的方式で、どんどん覚えさせるといいますか。今日は 10 問中 3 問しかできなかつたけれども、明日になったら 4 問、次の日は 5 問と、段階的に伸びていくという気持ちが大切なのだ。いろいろとモットーがあるのですが、そういうことをモットーにした教育を、授業ではなく、10 分間の導入だけで毎日やっているシステム。そうしたら、そのやり方が、何か都会で専門誌か何か載ったのですよね。

そうしたら、すごい興味、反響があつて、山村留学、今年は 24 名。それから親子留学

というものを始めて、親子で来てくださっている方が5世帯あるのですが、合わせて30名の子どもたちに来ていただいております。その方法が専門誌に載って、それに興味を持ってくださった方が増え、12月に募集したら、すごい。30名といっても、今までもやっている人が、去年もやりましたから10名か、もっと、だったかな、20名の受付だったのですが、倍ぐらいすぐ来て、今度はお断りしなくてはならないということで。去年も、そういう傾向があって、まだ2年目なのですから。そういう中で、今まではお断りしたことがなくて、足りなくて、「どうか来てください、来てください」だったけれども、教育方法を非常に共鳴してくださった、皆さんがあって、大変うれしい悲鳴といえますか、今は、お断り、残念ながら今年のご遠慮くださいというようなことです。最低1年、2年、3年おられる方もありますけれども、そういうことで取り組んで、若干、今までの雰囲気と違った学校になってきたかというところがございます。

もし、時間があったら、参観してください。これは参考になるかどうか。

今日、一番私が心配したのですが、10万人の佐久市の皆さんに北相木村の1,000人もいない所の行政の話をして、若干の共通するところはあるけれども、非常に難しいという思いでございます。今日の皆さんの職種を見ましたら、いろいろな専門職の方もおられますし、もちろん一般職の事務の方もおられます。そういう中で、村と同時に私の自己紹介をさせていただきます。

私も、皆さんと同じように町村職員でございまして、40年ほど役場職員として人生を送ってきたわけなのです。そういう中で、私のスタートは役場へ入って、事務職員でございました。農業共済、農業委員会、それから商工、小さな村の中でいくつもいきなり持たなければならないという環境下でした。今は農業共済といっても浅科ですか、東信農業共済組合ということですが、昔は各市町村にございましたけれども、今は、東信一本になりまして、組合になっているのです。農業共済というのは何をやったかという、稲作や、その頃は蚕。養蚕が盛んだったので、養蚕など。それから、各市町村、ほとんど牛など飼育しており、乳牛など家畜の災害に対しての共済です。寒冷、夏が寒くて。ちょうど今頃になると霜が降りてしまって、桑の葉が枯れてしまって、蚕が飼えないなどというときの保険制度の共済。そういう仕事が、各町村にあったのですが、それが私の公務員としてのスタートでございました。

そのあと、事務職ですから土木もやった。国土調査は、分かりますか。地図を作る、町村内の境界の。そういう仕事もやり、もちろん保健福祉、国保、戸籍などもやりました。そして、税務、財政、企画など、いろいろ全般にわたってやりましたが、唯一私が携わらなかったのは、教育委員会関係と公民館関係だけは直接携わらなかったのですが、ほとんどの事務職では働く機会がございました。そういう中で、今こういう立場になっているわけでございます。

そういう小さな村の私が、皆さんに役立つようなお話ができるか心配です。研修の冒頭の1時間を任せられたということで、非常に負担がかかっています。皆さんは緊張してい

るかどうかわかりませんが、私はもっと緊張しております。そういうことで、1時間、何分といったかな、まだ十二三分しか過ぎませんが、おつき合いよろしくお願いします。

それで、私どもの小さな村だから、今日は職員を1名だけ参加させていただいています。56番、キクチミカでございます。キクチの「チ」が、見たら「池」になっております。土へんです。直していただければありがたいかなと。そういうことですが、地元でございますので、そういう余分なことまで言わせていただきまして、本題に入らせていただきます。

本題に入るといいますか、九州、熊本を中心に大変なことになっておりますよね。熊本県内だけでなく大分県、もう九州方々で今も余震が続いて、大変でございますよね。先週木曜日の14日、恐らく14日の夜から、担当者、市町村の職員も召集されていると思いますし、15日の朝は、市町村職員が全部召集を受けていると思います。皆さんと同じように新入職員であろうと、恐らく、どこへ配属されているかわかりませんが、第一線で活躍といえますか、当然そこへ携わっていると思います。そういう中で、もちろんベテランの方も、どこへ行くのだ、何をやっていいのかどうかということは、非常に誰もが正直言って戸惑っていると思います。まず、自分の身を守ることが第一でございますが、その次は、職員の皆さんの中にも、自分の家が倒れた人もあると思いますけれども、やはり地方公務員、公務員というものは、うちがどうであろうと、災害対策本部へ行かなければなりません。恐らく全職員が行っていると思います。よほどのことがない限りね。そういうことが義務づけられているのが、地方公務員でございます。これが、一般社会の会社員と違うところでございます。冒頭からこういう話をしなければならぬ状況でございますが、それは、まず皆さん、もちろん分かっていると思いますが、まず承知してください。

そういう中で、今日のテーマは「新入職員に期待するもの」ということでございますが、職員に期待するものとはどうかと言いますと、そういう切羽詰まったときに、どのように、慌てることなく、自分を見失うことなく、それに対応できるか。もちろん、新人の職員の皆さんには指示が出ていると思います「あれやれ、これやれ」と。そうすると、それによって冷静に受け止めて、どう対応できるか。そういう職員であってほしいと思う。これだけ言ってしまえば、もう今日のあれテーマは終わるようなことになりますから、後から少し余分なことも言わせてもらいます。

まず、とっさのときに、どのように対応できるか。とにかく自分を見失うことなく、これは、大変なことだなどと考える必要はないのですね。一人でやるのではないのだから。きちんと指示をする人がいる。やがては皆さんもだんだんと指示する側に回るとは思いますけれども、それは徐々に覚えていけばいいことなので。

では、今はどうするか。上の人の指示に従う。やはり少しは「これはおかしいのではないかな」ということもあるけれども、当面は指示に従ってください。緊急のときこそ、指示に従わなくては。親方が何人もできてしまえば、大変なことになります。それに従って、いかに冷静にできるか。そして、協調できるか。ばらばらではなくて。それぞれの皆さんの配属の課もありますし、出先は出先であります。そこでどうまとまってやるか。災害

のときこそ、いろいろ個々のかつてな振る舞いは大変困ります。だから冷静に、どう取り組めるか。そして、協調性があるか。そして、さらに後で出ますが、積極性など、そういったことが、新入職員でなくても、職員に求められることでございます。これを言ってしまうえば、また話が終わってしまいますから、もう少し先へ進ませていただきます。そういうことで、では本題へ移らせていただきます。

会社説明、今年は3か月早く、3月からということで、皆さんの時より少し早くなりました。今は既に活発に動かれております。市町村の職員の採用は、少し遅れているのですよね。だから、皆さんも4月や9月になってからだったでしょうか。今年もやはりそうなのです。この辺はどうなのだろうかと考えておりますが、そういう中で、今、まさに次の、皆さんのもう後輩が準備なされているというところでございます。

今日、レジユメが行っているのですよね。レジユメの他にも資料行っていますか。なかったな。これだけですか。ないのかな。そうか。レジユメを作ったがお配りしていないようですので、では、話させていただきます。

「春秋に富む」という言葉。春、秋、「春秋に富む」という言葉がございます。これはどういうことかといいますと、まさに皆さんの今の気持ちだということで、これを書かせていただいたのです。若く展望に開けた青年。青年とは女性のことも含めます。その将来が希望に満ちているということで、「春秋に富む」という言葉ありますが、まさに今、それではないかと思えます。不安もありますが、期待の方が多くあってほしいと思えます。そういうことで、書かせていただきましたが、手元にないようでございます。

私が「新入職員に期待するもの」というテーマで講話をやるということで、時間をちょうだいしているというわけなのですけれども、一番先に、昨年10月でしたか何月だか、それぞれの市町村で違うと思えますが、採用の面接があったと思えます。そこで、どういう質問を面談で聞かれたか。もちろん、自己紹介や自分の長所や短所などを聞かれたと思えますが、その他にどういうことを聞かれましたか。一般会社ならば、「なぜこの会社を選んだ」など、同じようなことを聞かれましたか。多分、聞かれていると思えます。その中で述べられたこと。やはり見る側は、積極性があるか、活発であるか、それから、人の話を聞いているか。では話すとき、目をどうやっているか。これは、どこでも同じことだと思えます。そのときから既に、この人への期待といいますか、そういうものが試されているとは言い切れませんが、そのときからスタートしているわけなのです。

では、職員の皆さんにはそういうことを求めているかもしれないけれども、私どもは一応首長として市町村を任せられた者には、どのようなことが逆に期待されていると言われていくかということで、少しお話しさせていただきます。大きく分けて三つを一般的に求められているのではないかということです。

では、逆に首長に求められているということで、少し触れさせていただきます。1点目は、他の人よりも少し早く、住民の悩み、あるいは困難、困難には保健福祉の問題もあり、道路の問題もあり、金銭的な問題等、いろいろな個人的に住民の皆さんは悩みがあります

けれども、それをいかにそういった困難、願望を見抜き、それを具体的に何か行動を起こすということもあるのですが、言葉、表現、動作で表すこと。つまり、表現の能力。この人は何を困っている、どういうことを、村でやってやらなくてはいけないことを全部踏まえて、まず、それを表へ表わさなければいけない『表現の能力』というものが、一つ求められております。

2点目としては、大小の意思決定を的確にしる。そしてそのタイミングを外すことなく。タイミングというものは、すぐやっていいものでもなく、ずるずる行っていいものでもない。まず、決定する能力を求められております。判断力。いつからやるか、「今でしょ」という言葉がありましたけれども、そういうわけにもいかない。「今でしょ」と、今すぐやるわけにもいかないわけです。もう少し先に行った方がいいこと、それをいかに判断できるかということが、長の役目でございます。意見そのものは、長、一人で考えられる問題ではないから、いろいろな意見を聞きます。さまざまな意見が出てくる中で、これを今やるべきではないかとか、『決定の能力』というものが求められます。

3点目には、これを自治体としてやってもいいのかどうか。どういうことかと言いますと、どの程度までやっていいのかということは、自治体というものは、平等・公平でなければならないということがございます。一般会社と、これが大きな違いでございます。その中で、どの程度やるか。やるべきだったら、それほど説明はいりません。なぜできない、やらないのか、そのときに説明をしなければいけません。どういう理由だからできない。やるときは、自然に結果が目に見えてきますが、なぜやらないのか。その正当性、正統化を、理由づけではないが、説明するという『正統化の能力』が求められます。

その3点。先ほど言いましたが、まず住民の皆さんに表現する能力。そして、特に災害時などではその対応をどうしたらいいか、町の人には悩んでいると思いますが、その決定の能力、そして正統性。これはやってもいいのだ、悪いのだ。市町村でやるべきかどうかという能力。その能力を助けてくれる職員ならば、非常にうれしいです。だから、逆に言えば、そういうことが分かってくれる職員の皆さんであつたらありがたいということで、裏返せばそういうことなのでございます。これは少し抽象的だから、もう少し先へ行って、細かいことへ入っていきたいと思います。

公務員であるということは、もう皆さん当たり前のことなのですが、公務員とは、官公庁に勤めます。市役所もそうであり、村役場もそうです。官公庁、官庁。この「官」は、国を表します。公庁の「公」は「おおやけ」。これは県や市町村になります。官公。それで、この「庁」という字は、こうですよ。これは、本当は「聴く」という字が入っております。官公庁の「庁」（廳）という字が。なぜ私がこれを言うか、官公庁の庁に勤める人は、「聴く耳を持つ」という意味がございます。この「まだれ」は、屋根を表します。屋根の中で聞く、これが庁なのです。官公庁の「庁」の本来の意味。昔は、この「廳」を使っていたのです。そういう意味も含まれている官公庁。

それで「官」、国の人たちは、政務官や事務次官など「官」という職名が役職でつきます

よね。この「公」の県や市町村の職員は、何々官というものはつきません。いわゆる事務吏員の「吏員」という役職があるけれども、「官」はつきません。唯一ついているのが、警察官。なぜ警察官はついているか。警察官というものは、昔は国だったのです。それが、都道府県の管轄になった。その名残があつて「官」が、長野県警の県の職員ですけれども、「官」という字は使っているのです。そういう名残があります。昔は、警察官は国。一番始めが国だったから。これは余談でございますけれども。これは知っている方もおられるかもしれないけれども、少し心に一点留めておいてほしいことは、庁はこういう意味があるということ。

一般の会社と少し違うところは、公務員の「公」、おおやけでございます。公平でなければいけない。平等性を取る。一般会社はと云ったら、会社の利益、極端に言えば、オンリーでもいいかもしれないが、公務員には、そういうわけには行きません。それが、一般会社との大きな違いだと思います。好奇心や向上心や積極性というものは、一般会社であろうと公務員であろうと同じことだと思いますけれども、そこで住民の意見を、一般の意向を聞かなくてはいけないのが、公務員でございます。

そうかと言って、何でもかんでも聞けというわけにもいかないでしょう。聞き方の極意というものがございます。住民から保健師さん、あるいは看護師さんもいるかもしれないけれども、いろいろと健康の問題、あるいは困った問題。道路関係ならば「あの道を直せ」「境界が違っている」など、いろいろ住民から来るかもしれない。来るものは、苦情だけですよね、「いいことだ」「良かったな」というのは、ごくまれでございます。

まず、聞き上手にならなければいけない。そこで、聞き上手とは、相槌の極意というものがあつて、「さしすせそ」。「さ」とは、「さすがですね」と。「さすが」の「さ」。「し」は「ああ、そんなこと知らなかったんですよ。ああ、そういうことだったのですか」と相手をちょっと上げるようなこと。知っていても、そういう態度というか、表すと、相手は悪い気はしないからね。「知らなかったです。ああ、そうですか」の「し」。それから「す」。「さしすせそ」の「す」は、「すごいですね」と。そして「せ」は、「センスいいですね」。言うのではなくても、そういう気持ちを顔に出せばいいということなのだけれども。「センスいいですね」の「せ」。「さしすせそ」の「そ」、最後は「そうなんですか。そうなのですね」と。

こういう心で聞いてやれば、何もこういうことを言葉で出すことはない。そういう気持ちでやってやれば、腹が立つ気にもならない。相手も、興奮してきてもいづらか和らぐのではないかということで、あえてこれを言いました。こんなもの、実施しろと言っても、そんなこと、実は頭にも来るのですけれどもね。そういうことで、少し知っていることでも、知らないふりをすることも必要です。

そこで、あまり知ったかぶりはいかんという、少し笑える話、小話を、ここで披露させていただきます。知っている方も多いと思いますが。ある貴婦人がいたそうです。すごいこんな帽子をかぶってね。その人が美術館へ行きました。入った早々、絵が飾ってありま

した。「これはルノアールですね」と言ったのだそうです。そうしたら、そこの美術館の職員の方が「いいえ、これはゴッホです」。それで、その隣へ行ったときに「これはミレーですね」と言ったら、「これがルノアールです」。そうしたら、その貴婦人は少しかっかしてきて、さらにその隣へ行って「これはピカソですね」と言ったのだそうです。そうしたら、「それは鏡です」と言われたそうです。分かりましたか。だから、あまり知ったかぶってやることは……。職員の皆さんも背伸びをすることはない。一步一步誠実に。

そうかといって、積極性も求められるから、あまり……。これが難しいところ。でも、こういうことは、1年、2年とだんだんやっていくうちに、自然に身についてくるものがございます。また、個性によって、いろいろな表し方がありますから、それほど気にすることはないと思いますが、そういうことです。私も40年公務員をやりましたけれども、途中で、何度も、いつ、公務員を辞めようと思ったこともあり、「これでいいのかな」などと思ったことはたくさんありましたけれども、なぜか40年たってしまいました。さらに一般職を終わって、また、勤めています。また、なぜかこのような立場になってしまっています。

それから、もう一つ。「牛に引かれて善光寺参り」という言葉ありますよね、布引観音など、東信の皆さんは知っています。これの本当の意味は、分かりますか。「分かりますか」と言って、「分かります」などと、手を挙げて言う人はいないかもしれません。少し触れます。あれは、布引観音から、牛に引かかった洗濯物を追っかけていったら、善光寺まで行ったということが一般的なことでございますけれども、あの本当の意味は、こういうことだそうですよね。「思いがけずに他人に連れられて、ある場所へ行った。それが善光寺」になったのです。他人の誘いや思いがけない偶然で、良い方向へ導かれることもあるという例えなのだそうです。だから、「嫌だな、嫌だな」と思うことでも、他人が進める、あるいは誘われたけれども、そういう中で「嫌だな」と思っている、思いがけずラッキーなことにも見舞われる。そういうこともあるということで、聞く耳を持ってということも、それにつながる。「嫌だな、嫌だな」ではないけれども、さっきの相槌の「さしすせそ」ではないけれども、そういう気持ちで聞いていただきたいということで、この例えを出させていただきました。

それでは、先に行きます。それでは、もう一回、何が大切かと、いろいろとりとめのないような話になってしまっていますので、整理させていただきます。まず、やはり求められるものは、やる気、積極性。よく退職されるときに、「大過なく過ごすことができました。これで退職できます」という挨拶の中で、決まり文句のようにありますけれども、大過なくとって、大過があったら大変なのですよね。

そこで私は、今年の小学校の入学式のときに、1年生だからそういう難しいことは言えないので、こういうことを言いました。入学式の祝辞のときに。「小さな失敗に感謝する」という言葉がございます。この小学校1年生の皆さんに話したことを、皆さんに少々話すことは気が引けるのですけれども。これはどういうことかということ、もちろん承知してい

る方もいるのですが、小さな失敗に感謝するという事は、小さな失敗のうちに大きな失敗を防いでくれるからなのですね。そのときに気づける。だから、これは仕事にとっても大切なことなのですが、少しつまずいたときに、自分一人で取り込まないように。やはり、先輩なり他の人に相談してみてください。事前にそうすることによって、大きな問題に行かないことが、特に仕事の中では多々出てまいります。ですから、やる気と積極性はもちろん必要ですが、その半ばでつまずいたときに、あまり気張らずに。やはり事が大きくなると、公務員は大変です。すべての人が「あの役場はだめだ」「役所はだめだ」となってしまうのです。遠慮なく話してみ、相談してください。そういう仲間、先輩がいる。協調性、それが求められるのが職場です。そういう気持ちを、ぜひ心の隅にいつも置いていただきたいと思います。

つまり、次に申したい。人間関係に結ばれてきますけれども、その仲間同士、信頼関係です。だから、何も言わないで心に閉じ込めていたら、「あの人、何を考えているか分からない」「信頼できるかな」と、そういうことになってしまいます。逆に、そういうことを話すことによって、プライベートのことまで話すことはないのですけれども。そういうやる気、積極性の中にも、人間関係が生まれるには、何でも自分のところにだけ閉じ込めておけばいいというものではない。失敗も小さいうちですみますから、そういう気持ちで、職場との関係、また住民との関係も、広がってくると思います。

また、仕事で一番怖いことは、慣れなのです。3年ぐらいたつてくると、一番怖い。よく3の周期といいますね。3か月後、3年後とね。「仕事の慣れのABC」というものがあります。Aとは「当たり前」。「こんなことは当たり前」と思ってしまう。簡単だからとと思ってしまう。Bとは、同じようなことだと「ばかにする」のB。ばかにする、軽く見てしまう。そして、Cというは、「しっかりやれ」と。仕事の慣れに対してのABC。当たり前だとは思わない、ばかにしないで、しっかりやれよと。これが、仕事のABCだ。そういうことも言われております。

それと、もう一つは笑顔だと思います。ただ、へらへら笑っていいというわけではなくて、バランスのよい笑顔が必要だと思います。1日24時間の中で、保健師さんがたくさんいますので、このようなことは知っていると思うのですが、笑うことは健康に非常にいいことは、誰でも知っていますよね。それも、ただ口先からの笑いでは、健康にそれほどよくないです。多少はいい。本当は腹から笑う笑いだと、本当に体に良い。ジョギングするより、何秒間かで匹敵するなども言われています。皆さんの24時間1日の中で、成人、男性でも女性でもそうですけれども、本当に腹から笑えた時間は、1日の中で平均して、皆さん、どのくらいあると思いますか。1分または2分、あるいはもっとたくさん。実は23秒だそうです、24時間の中で。寝ながらでも、寝ているときでも笑う人がいますからね。だから24時間の1日。その中で、たった本当に腹の中から笑えるは、平均して23秒だそうです。

あまり静かだから、私が最近笑えた小話を、一つ紹介させていただきます。これは腹か



ら笑うのではなくて、口先だけの笑いなのですけれどもね。小学生のお姉ちゃんと弟さんがいたそうです。それで、とても仲が良い。姉弟だから。学校から帰ってきて、「姉ちゃん、姉ちゃん。今日、学校でこんなことがあった。国語のテストがあったんだけど、僕の答えが×になっちゃった」。それが腑に落ちなかったので、それを話したら、「じゃあ、どういう問題だったの？」って言ったら、「いかにも」という言葉を使って、短い文章を作りなさいということで、そうしたら、「僕の答えが×だった」と。じゃあ、姉ちゃんが「どんな答え書いたの？」って言ったら「イカにもタコにも足がある」と書いたそうです。「いかにも」という言葉を使って「イカ」にしてしまったのですね。「イカにもタコにも足がある」と言ったら、私が先生ならば、三角ぐらいにしといてあげるのですけれどもね。

少し笑えたかな。誰も笑ってはいないけれどもね。では、もう一つ。「アダムとイブ」の話を知っていますか。アダムとイブを作った神様に、アダムが「イブはどうしてあんなに美しいの？」と聞いたら、神様が、「アダム、おまえがイブを好きになるためだ」と言ったそうです。そうしたら、もう一つアダムは、また聞いたそうです。「イブはどうしてあんなにグラマーなの？」と。そうしたら「アダムおまえがイブを愛するためだ」と言ったのです。「でも、どうしてイブはばかなの？」と聞くと。そうしたら、「そんなことは決まっているじゃないか。イブがアダム、おまえを好きになるためだ」と言ったそうです。これがアダムとイブのお話だと、本当であるわけがないのですが、そういう話もごさいます。

なぜ、こんな話をするかということ、遊び心で仕事に当たることも必要ではないか。特に企画関係に当たるときは、そうだと思うのです。何でもかんでも難しく考えなければいけない。そういうことでも笑いを誘えるような、そういう遊び心も、仕事の中には大切ではないかといったことです。

あと十二、三分になりましたので、一つだけでも、配った資料ですから「人生 80 年の生涯時間」というものを説明させていただきます。これは、実は私も職員研修か何かの時に、二十何年以上前。そのときに「おお、これは」と思ったもの。やはりこういう講習会のときに受けたら感動したことなので、ずっと大切に取っておきました。少し今風にアレンジいたしました。

人生 80 年の生涯時間、その頃、私の頃は人生 80 年、平均寿命が 80 年。今は健康生涯人生が 80 ぐらいですよ。そういうことで人生 80 年の生涯時間「(健康生涯人生)」と言ったのです。人生 80 年の総生涯時間というものは、一番上にある、24 時間×365 日×80 年で、約 70 万時間です。後で計算してみてください。うるう年が 20 回あったとしても、20 回×24 時間で 480 時間だから、それほど細かいことにとらわれることなく。人生の 80 年とは、70 万時間の持ち時間が誰でもごさいます。そういう中で、まず①の生活必要時間。これは 10 時間。ということは、睡眠をしたり、あるいは食事を取ったり、用を足したりということで、トータルで 10 時間ぐらいは 1 日の中でそれに費やす。それが 10 時間×365 日×80 年。これで約 30 万時間を費やしてしまいます。それで②の、教育時間というのは、普通学校などでの時間は平均 7 時間ぐらいだそうですが、通学は 365 日の中

で210日ぐらいだそうです。小学校に入学してから、一応二十歳まで。もっと大学まで行く人もあり、二十歳前の人もあるから、平均です。そういうことだと、教育時間というのは7時間×210日×14年で2万時間ぐらい費やす。そして、③の労働時間というのは、平均的には8時間ですが、通勤時間などいろいろありますから、10時間。そういうことも加えて10時間×230日ぐらいです。それ掛ける45年。二十歳から、恐らく皆さんのときには65歳も現役だろうと思います。今だって、実際には65ぐらいまで働いております。そうすると、労働時間というものは10万時間。そうすると、自由時間というものは、70万時間から、上の①、②、③を引いた残りの28万時間が、人生の中の自分の時間だと、使える時間だと言えるのではないかということです。それをイメージにしたのが下の図でございます。皆さんは、恐らく二十歳前後行っているのですから、この二十歳までの空白の所が自由時間です。これは既に終わっております。そして、③の労働時間、10万時間が、今始まったところです。そういう中で、65歳からは、労働時間も教育時間もなくなるから自由時間ということになる。ですから、そういうことで、この時間をどのように費やすかは、それぞれでまた有効に使っていただけたらなということで、これを使わせていただきました。

あと5、6分ありますけれども、何かございましたら、質問を受けたいと思います。難しい質問はご法度といたしますが、何かあるでしょうか。とりとめのない話で、この貴重な70万時間の1時間をおつき合いさせてしまいましたけれども。

では、ないようでしたら、ここで5分早く終わらせて怒られてもいけないので。明日の最後の時間ならば、早く終わらせたと喜ばれたかもしれないですけれども。少し雑談に移りますか、5分ほど。皆さん長野県ですよ。他町村、他県から来ている方もおられますか。出身はどちらですか。

○ 東京都です。

井出 東京ですか。では、それほど遠くはないですね。長野県の方がよく言われます、長野県の中南信の方。私どもは東信。北信は近いかもしれないけれども、随分違いますよね。食べる物にしろ、気性にしろ。そういう中で、長野県は、実はばらばらなのです。昔は、国も違った。だから松本圏や東北信と中南信が少し違ってしまっています。

そういう中で、信濃国とは、その調和を取るために生まれたのです。だから、唯一長野県人が一つになれるときは、「信濃の国」を歌うところだということで、東京へ行っても、長野県人会は必ず「信濃の国」を歌っているということで、これは「カミングアウト」でも取り上げられました。そういう歴史があるということでございます。

それから、よく教育県だと、長野県は言われます。これはどういうことか。教育のレベルが高い、その教育県ではないのです。昔は、長野県ほど寺子屋、今で言う塾、そういう物が全国で普及しているところはないのだそうです。だから、未教育、未就学というもの

が、長野県は少なかった。初等教育はほとんどの人が受けられる環境であったということで、長野県は教育県と言われるということです。残念ながらレベルの高いというのではないそうです。本当はそういうことだということを、長野県人として、少し心の隅に置いていただけたらと思います。

それから、まだ時間ありますので、行政区分。これは後で、後半といたしますか、2時間目以降に出てくるかもしれないけれども、行政区分ということがある。これは47都道府県があります。それで、北海道だけが道です。道。どうしてか。これは、それほど意味はないのです。それで、よく地名を呼ぶとき、長野県、秋田県、何県でもいいのだけれども、県を取っても、皆、通じますよね。長野、秋田、山梨、福岡だけで通じます。府でも、大阪府、京都府の府を取っても通じます。東京でも、都を取っても、東京だと言えば。では、北海道の道を取れば、どうですか。北海。これでは通じません。つまり、行政の中でも、道は違うのです。県の役割を持つときは道で、道知事でございますけれども。あそこで住所を書くときは、普通ならば東京都でも、区市町村になりますけれども、北海道の場合は、道一本なのです。あとは、支庁はあるけれども、少し他の市町村と違うのです。だから、道を取ってしまえば全然通じなくなるのが、北海道という地名そういうことだと思います。道についてはもっと本当に難しい専門的な歴史的なこともあります。時間もあれば、私も若干知っているから話したいのですが、今日はそういうところまで入りませんけれども。

そういうことで、行政というもの、また市町村の役割などがたくさん、明日また出てくると思いますので、半分ぐらいは真剣に聞いていてください。恐らく午後の部は、誰でも眠くなるから、これは自然に逆らってはいけません。そういうことで、今日から明日、2日間、有効に使っていただければ嬉しく思います。

全くとりとめない、つたない話をさせていただきまして、先ほどの70万分の1時間をおつき合いさせていただきまして、どうも本当にありがとうございました。どうかこれからもよろしくお願ひします。頑張ってください。